

ヒト 環境系の相互関係と先史時代人類誌の枠組み Human-environment interactions and a framework of prehistoric anthropography

小野 昭^{1*}

ONO, Akira^{1*}

¹ 明治大学黒曜石研究センター

¹Meiji University, Center for Obsidian and Lithic Studies

本報告は、ヒトと自然環境の相互関係を議論する際に、考古学的に復元される人類の社会はどのような枠組みで統合されるべきかを議論する。第四紀のさまざまな分野から復元される古環境に適応的に展開した人類社会は、文字のない先史時代に遡れば、発掘調査によって得られる痕跡からのみ推定することが可能である。その際ある程度科学的に検証可能な2つの方法がある。第1は実験考古学の方法であり、第2は民族(誌)考古学の方法である。この二つをわせて、ふつつ中位研究 middle-range research とよぶ。特に第2の方法は現生の民族誌のデータから主として行動学的な面に力点をおいて過去にフィードバックさせるものである。しかし、失われた過去の断片から復元されるのは、厳密に言えば実際は特定の民族でもなく、民族誌でもない。それは先史時代の人類誌 anthropography として統合されるのが合理的である。経験的なデータはあくまで具体的であるが、その意味は中立的で抽象的な位置にとどまる。これが筆者の暫定的な結論である。現在筆者は、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業で「ヒト 資源環境系の歴史の変遷に基づく先史時代人類誌の構築」の研究代表者として、第四紀研究のさまざまな分野の21名の研究者とこの課題に取り組んでいる。本年はまだその初年度であるのでその紹介も行いながら、人類誌の概念的枠組みについて予備的な検討をおこなう。

キーワード: 先史時代, 人類誌, 中位研究, 民族誌考古学, ヒト 環境の相互関係, 考古学

Keywords: prehistory, anthropography, middle-range reserach, ethnographic archeology, human-environment interactions, archaeology